vol. 2263
【発　行】大分県高等学校教職員組合教宣部　大分市大字下郡496-38　大分県教育会館
TEL／(097) 556-2838　FAX／(097) 556-8998　MAIL／ohtwu@view.ocn.ne.jp

大分県高教組情報

【発行者】大野　真二　【印　刷】(株) 佐伯コミュニケーションズ　【売　価】30円(組合員の購読料は組合費の中に含んで徴収しています)

学校にも働き方改革の風を

今号の掲載内容（掲載順）

●日々向き合う子どもたちの姿をスタートに、つどい、語ろう、明日の教育を！
　― 大分高教組　第69次県教研開催

日々向き合う子どもたちの姿をスタートに、つどい、語ろう、明日の教育を！
大分高教組　第69次県教研開催

と　き　全体会：10月30日（土）　分科会：11月７日（日）　　ところ　大分県教育会館

全 体 会

全体会は、高教組・県教組合同で開催されました。

記念講演は、法学者の谷口真由美さんに「主権者教育を考える」と題して講演をしていただきました。

衆議院議員選挙投開票日前日ということもありましたが、主権者教育というのは、単に政治に関心をもち、投票するように生徒たちに伝えることではなく、日頃からとりくんでいくこと、問題意識を持って行動することの重要性を改めて考えさせられました。

＜参加者の感想＞

○教材化、政治のあつかい方など新しい視点をいただいたと思います。

○大変良かったです。政治教育については、国からのお達しがきていたりして思うようにできないし、やってはいけない圧力満載ですが、できる範囲でしていかねばと思いました。欧州などの学校との差を思います…。

○わかりやすい例えで、話もおもしろかった。主権者教育って難しいと思って敬遠されがちだけど、先生のお話を聞いて自分でできることをできるやり方で子どもたちに伝えていかなければ、と思った。

○マイク一本で飽きさせないトーク、楽しかったです。

教科・問題別分科会

第１分科会　日本語教育

	リポートタイトル	リポーター名	分 会 名
1	授業を楽しむ一提案	鳴海　大志	別府鶴見丘
2	夜の白めし（最終回）	福田晃一郎	日田定時制

「日本語教育」分科会の報告

大分商業分会　　門脇　孝満

「日本語教育」分科会は２本のリポートを学習しました。福田晃一郎先生の「夜の白めし」と鳴海大志先生の「授業を楽しむ一提案」。

福田先生は定年前１年ということで、積年の思いをリポートや発表にまとめていました。国語の教員として自らが文章

を書くことをアピールしていました。自分は新聞記事を使って単発の授業をしている、教科書から離れる授業をお薦めする、というような熱い姿勢でしたが、それを受け止めるべき分科会の参加者が少ないことを嘆いていました。

鳴海先生は、漢詩をリズムよく現代語訳する実践をしていました。本来は中国語のリズムですが、日本語でも言葉のリズムということに注目させることは、特に詩の学習については大事だということが分かりました。生徒達は、やることが理解できれば一応とりくみますが、それを楽しくさせるためには教員のキャラクターが大事だと言っていたことも印象に残りました。

参加者は少なかったですが、活発な発言があって学習になったと思います。

＜参加者の感想＞

○抱えている悩みは、学校が違えど同じようだと感じた。先生方の話を伺って、多くのヒントが得られた。

○教研の発表を聞くと、自分の日々の実践を振り返る機会になり、身が引き締まる思いがします。日本の現状を憂いながら、何が出来るのか考えることを継続していこうと思いました。

第２分科会　外国語教育

	リポートタイトル	リポーター名	分 会 名
1	英語科教員の働き方改革のために	木村　辰郎	玖珠美山
2	鶴城高校75期での新たな挑戦「リテリング活動から表現活動へ」	森　小百合	佐伯鶴城

「外国語教育」分科会の報告

玖珠美山分会　　木村　辰郎

運営委員会兼リポーターが２名、一般参加者が１名という、アットホームというにもほどがある雰囲気で行われた。

１本目の森さん（佐伯鶴城分会）の報告は、リテリングを中心に本文の内容や言語材料をもとに表現力を高める取り組みに関するものであった。各クラスの実態に合わせた要求レベル調整や、ＩＣＴやルーブリックの活用事例など具体的な実践も提示され、授業のヒントとなる内容があった。合わせて、報告内容の一部が習熟度別授業の研究授業に向けたものであり、研究授業が本来やりたい内容や授業ペースに与えている影響についても意見交換がされた。

２本目の木村は、英語教員の多忙化を招いている要因を挙げ、減らせるものはないかという問題提起としての性質のものであった。われながらとりとめのない内容ではあったが、今やっている指導を考える材料にはしていただけたと考えている。

全体として話題の中心となったのは、生徒につけさせたい力を教師がしっかりと考えて指導内容を取捨選択すること、学校で「当り前」に行われていることを吟味することであった。そして何より大切なのは、改善のために教員同士が情報や意見を交換し合い、必要であれば声を上げることであるということも確認した。

＜参加者の感想＞

○今勤務している学校が、規模が小さく英語科教員も多くはないため、日頃の授業や方向性に自信がなく不安もあったが、同じように思われている方も多くいると聞き、少し安心した。まだ経験が浅く知らないことが多いが、色々なことが知れて良かった。

○少ない人数でしたが、ざっくばらんにお話ができて良かったです。来年度は、若い人たちのリポートもぜひ何本か出されると、参加者も増えるのではないかと思います。

第３分科会　社会科教育

	リポートタイトル	リポーター名	分 会 名
1	「歴史総合」の授業案	田尻　洋佑	中津南
2	時代区分問題を利用した世界史授業の試み　－中国史をどのように時代区分すべきか？－	西　裕一郎	大分豊府
3	今年の地理の授業を振り返る	山田　憲昭	玖珠美山

新課程を見据えた実践報告

大分豊府分会　　河野　高宏

今年度は世界史から田尻洋佑先生、西裕一郎先生、地理から山田憲昭先生のリポート、他２名の参加者で計５名の参加でした。

田尻先生は、来年度から始まる「歴史総合」の授業案を提示されました。世界史と日本史両方を扱うことから誰でも使える教材開発が目的であるとのことで、大変意欲的な取り組みでした。西先生は、中国史では時代区分が学説で定まっていないことから、生徒に既習の知識を活用させ、どのような視点で時代区分をするのか「主体的・深い学び」の授業実践を紹介してくれたのと同時に、メタモジクラスームというアプリを活用した授業展開も提示してくれました。山田先生は、実業科と普通科混合校における地理の授業実践について自身の振り返りとしてリポートをまとめておられました。「めあて」を明確にした授業展開の実践と、来年度からの「地理総合」では「めあて」や「学習の流れ」も示されていることから期待している旨が語られました。

他にも新課程移行により、大学入試ではどのように出題されるかや、それによってどこまで教えるかについて討議したり、各校のICT活用状況を確認したりととても刺激的な時間でした。とても勉強になり、大変有意義な分科会となりました。

＜参加者の感想＞

○発表の機会をくれること自体が、自分にとっては役に立っています。

○久しぶりの教研に参加して、刺激になった。今後の新課程のことについて情報交換もできた。他校の状況を知ることで、活発な話し合いもできた。良かったので来年も参加させていただきます。

第４分科会　数学教育

	リポートタイトル	リポーター名	分 会 名
1	数学を教えてみて思うこと	中野　幸弘	中津北
2	「教科書に書いてあることだけじゃ･･･」と思われる件について	沼田　庄司	中津東
3	「数学探究の旅」 フェルマーからガウスまで	宮﨑　浩幸	大分舞鶴
4	iPadのKeynoteを利用した調べ学習について	野口　　豪	大分鶴崎

授業・探求・評価

杵築分会　　柴田　由美子

数学教育分科会は、参加者５名で開催されました。開始前から、生徒用タブレットの効果的な使い方やアプリの話で意見交換するなど、数学教育に対する積極的な姿勢が見られました。

リポートは４本で、授業の中での教科書内容の扱いについての深い理解をどのように促すか、ということから始まりました。教科書ではあまり詳しく扱わない対数関数や常用対数の話では、アポロ計画から大学入試まで様々な角度から意見交換が行われたほか、探求としての数学の取り上げ方についてのリポートもあり、生徒の作品を見てその評価についての疑問なども出されました。生徒の探求やプレゼンテーションの内容を見ると、我々教員の方がタブレットの扱いに慣れて

いないことを痛感します。教員こそ、タブレット活用に対して主体的にやらねばならないと思いました。

最後は、来年度からの観点別評価について情報共有することができ、各分会へ持ち帰って検討できるようになったことで、有意義な分科会の締めとなりました。

＜参加者の感想＞

○数学教育の話ができて良いです。多数の参加を期待します。

○授業から探求、来年度の話までできて有意義でした。

第５分科会　理科教育

	リポートタイトル	リポーター名	分 会 名
1	アインシュタインからのメッセージ～人権・平和～	堀田　秀俊	安心院
2	手軽に楽しく物理を考えることができる教材について	門脇　秀文	大分舞鶴
3	理科教育とSSH	佐藤　公亮	佐伯鶴城

生徒の興味・関心を高める授業の工夫

鶴崎工業分会　　工藤　友美

①手軽に楽しく物理を考えることができる教材について

大分舞鶴分会　門脇秀文先生

門脇先生は授業で演示実験を多くされており、そのことをまとめた発表でした。しかし、舞鶴高校は進度を早めることが求められ、シミュレーションなどが中心となっているとのことです。演示実験は、たまにうまくいかないこともありますがそれも含めて実際に見せることも大切だと考えられているそうです。５つの演示実験を見せていただきました。ヨーヨーの実験は、意見を述べることの大切さを伝えるために先生が20代の頃から使っているという話が印象的でした。

②理科教育とSSH　　佐伯鶴城分会　　佐藤公亮先生

佐伯鶴城はSSH指定校であるため、創生探究基礎という時間を用い、３年間に亘って全ての生徒に課題研究を取り組ませているとのことです。予算がついているため、遺伝子組み換えなど高価な機器が揃っており、最先端の授業ができるがあまり使われていないものもあるようです。生徒のアンケート結果を見ると、学力がついたと実感する生徒は少なく、研究内容が受験とは関連のないものであることが考えられ、今後の課題ということでした。

③アインシュタインからのメッセージ～人権・平和～　　安心院分会　堀田秀俊先生

原子分野におけるビデオ教材を用いた授業展開について発表をしてくださいました。映画「ハローアインシュタイン」の中のアインシュタインの発する言葉で、堀田先生の平和や人権に対する思いを授業の中で伝えているとのことです。何年も授業の中で取り組んでいるとのことでした。この映画を見せたいという意見も出ましたが、DVD化はされていないとのことなので残念です。

総括・まとめの中で出た意見により、来年度の討議の柱について評価に関する内容を加えることになりました。

＜参加者の感想＞

○生徒にどのように興味・関心をもたせるのか勉強になった。また、理科を通して平和学習を行うことの可能性に気がつきました。ちょうど今、原子分野を私立コースの生徒が行っているので、ビデオ教材など使っていこうと思いました。

○久しぶりに参加させてもらいました。楽しいひとときでした。

第6分科会　芸術教育

	リポートタイトル	リポーター名	分 会 名
1	音楽と社会のかかわり～音のデザインの理解および音楽におけるコミュニケーション能力向上に向けた取り組みについて～	別府鶴見丘	稲田　雅史

芸術と社会のかかわり

大分支援分会　　那賀　理恵

第６分科会「芸術教育」は広い多目的ホールの片隅にて、7名参加して開催されました。

まず、別府鶴見丘分会の稲田雅史さんによる「音楽と社会のかかわり～音のデザインの理解および音楽におけるコミュニケーション能力向上に向けた取り組みについて～」と題したリポート発表がありました。音素材の視聴あり、ギターの生演奏あり、生徒役になっての寸劇あり、の参加型の発表でしたので、他教科からの参加者にもわかりやすく、稲田さんが日頃から体験重視の取り組みをされていることが伝わってきました。「生徒にとっては社会の役に立つというイメージの低い音楽だが、実際は生活や社会と深いかかわりがあるため、日常の中の様々な音楽的要素に気づく視点を与えたい」との思いを持って取り組んでいる音楽の授業改善についての発表でした。

次に、①「評価について」②「生涯学習としての芸術科教育のあり方について」の二点に関して討議を行いました。評価基準や芸術のあり方について活発な意見交換が行われました。

「芸術とは生活を深め、心を高め、人生を豊かにするもの」であることを確認し、「芸術と社会の結びつき」を広めていくことを約束し、閉会となりました。

＜参加者の感想＞

○生活や社会に密接に関わりのある芸術における授業開発の話を聞けたのは、大変勉強になりました。“気づけないで通り過ぎてしまう”といった課題に対して、身近なものを例に気づかせる視点を与える方法は、とても参考になりました。

○他の教科の研究内容でしたが、とても勉強になりました。自分の授業にも取り入れられる話が聞けたので良かった。自分の授業の状況も話せて良かった。

第7分科会　情報科教育

	リポートタイトル	リポーター名	分 会 名
1	情報Ｉの準備をしよう　Pythonを使った10分タイピング	畑野　新司	杵築
2	もう学校における情報科の指導	末永多香光	もう

「情報科教育」

臼杵分会　　木部　武志

まず、杵築分会の畑野先生のリポートは次年度から始まる新課程で行われるプログラミングを先取りして実践した発表でした。基礎的なものから応用的な内容もあり、授業ですぐにでも活用できる取り組みの紹介でした。そして、もう分会の末永先生のリポートは教科「情報」を「準ずる教育」として実践しているもう学校での困りを取り扱ったものでした。2025年度の新学力テストでは教科「情報」も実施されるため、状況次第では今後大きな問題になるという共通認識が持てた非常に意義深い話し合いができました。

話の中では校務のICT化についても話題になり、本来効率化されるはずの校務がICT化によって逆に大きな負担になっていることや、子どもたちとのつながりや教員間のつながりがICT化によって実は希薄になってきていることなど、ディジタル化が進んでいく世の中だからこそ、アナログな作業を見直すべきではないか？という意見が挙がりました。つまるとこ

ろ、教研活動のようなアナログな作業がいまこそ大切ではないかという思いを参加者全員が強く感じました。初対面のメンバーでの討議でしたが、それぞれが答えを持って帰れることができ、とても有意義な分科会になりました。

＜参加者の感想＞

○「情報」が大学入試に採用されるため、専門的な教育がより求められるという部分で、どう県として進めていくのかその部分がとても気になりました。他教科同様、入試に対応する教育を施すことができるようにしていかなければと思います。

○少人数の分科会ゆえに非常に多くの意見交換ができたと感じています。私個人的には新たな課題を与えていただいたと感じているので、今日学んだことをしっかり次につなげていこうと思います。

第10分科会　職業教育

	リポートタイトル	リポーター名	分 会 名
1	SDGsを地域社会に訴える大看板を再生可能エネルギーで照らす取組 ～「SDGs」をテーマにした授業で生徒の環境保護意識や主体性を高める教育活動の一考察～	佐藤新太郎	大分工業
2	生徒の喜びや楽しさが一目でわかるものづくり教育を目指して ～思いを形に…～	石田　義徳	佐伯豊南
3	Well-Being 福祉教育における合理的配慮と職業選択	後藤　　遥	佐伯豊南

垣根を越え、巻き込み型の職業教育

中津東分会　　高津　幸治

本分会の１本目のリポートは佐伯豊南分会の石田義徳さんの「生徒の喜びや楽しさが一目でわかるものづくり教育を目指して」でした。若年者ものづくり競技会の参加を経て、機関車づくりにシフトし、多くの困難にぶつかりながらも一歩ずつ乗り越えていく様子が伝わるリポートでした。２本目は同じく佐伯豊南分会の後藤遥さんが「福祉教育における合理的配慮と職業選択」と題してリポートされました。合理的配慮の申請があった生徒の就労までの取り組み、高卒求人（障害者枠）の少なさなどが報告されました。本リポートからは新たに知ることばかりでした。３本目は大分工業分会の佐藤新太郎さんのリポートです。大分工業高校は今年120周年という節目を学校全体で「SDGs」に取り組むと年度初めにスタートし、再生可能エネルギーの創出、「SDGs」を地域社会に訴える取り組みを「大看板」として実現するまでの報告でした。学科を越え、企業を巻き込んでの活動、活動を通しての生徒の変化が大変よくわかる内容でした。最後に、全体を通して活発な意見交換がなされ大変有意義な時間でした。

＜参加者の感想＞

○生徒が変化・成長する動機づけや学ぶ力が、とりくみからとても強く伝わってきました。勉強になりました。

○職業高校の頑張り、困難さも良く分かった発表でした。発表者の先生方の熱意がよく伝わってくる内容でした。

第11分科会　自治的諸活動と生活指導

	リポートタイトル	リポーター名	分 会 名
1	学年主任になって	武藤　裕一	高田
2	教育相談活動のとりくみ	後藤　恵美	海洋科学

第11分科会に参加して

大分舞鶴分会　　清瀬　宣裕

自治的諸活動と生活指導をテーマに分科会での発表と討議が行われました。１本目の発表は、学校で行われている教育相談活動のとりくみを海洋科学分会の後藤恵美先生からしていただきました。保健健康調査の中に生徒の抱えている悩みを書く項目を設け個人面談に利用したり、１年生の生徒全員のスクールカウンセラー面談を行ったりすることで、いじめや生徒の困りの早期発見につなげているという報告でした。討議では参加者の学校で行われている教育相談のとりくみを発表しました。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの利用の仕方や人間関係プログラムの行い方など多岐に亘って意見交換ができました。２本目は、高田分会の武藤裕一先生が学年主任として、特に、生徒・保護者との対応についてとりくまれたことを発表していただきました。討議では、生徒の問題行動が起こったときの保護者との連携の取り方や対応する担任や学年団との連携の仕方について意見交換をしました。どちらの発表も活発な意見交換ができ、学校でのとりくみに活かしていくための参考となりました。

＜参加者の感想＞

○SSWの活用についての理解ができた。保護者対応の初動や、生徒対応の線引きの大切さを改めて確認できたので良かった。今後のためにとても参考になった。

○先生方の学校の様子や考えを聞くことが出来、エネルギーをもらえました。また明日から頑張ろうと思います。

第13分科会　人権教育

	リポートタイトル	リポーター名	分 会 名
1	Hとケーキと採用試験	時枝　武敏	由布
2	リポートを書くことから始まる	時枝　武敏	由布
3	解放学習会、大切なところ	時枝　武敏	由布
4	差別なんか絶対になくならんのに～地区と学校の取り組みをつくる～	時枝　武敏	由布
5	「嘘をついて生きたくない」という気持ち	時枝　武敏	由布
6	100年の学校、由布高校での学び　～だから由布高校は大切な学校なんだということ～	時枝　武敏	由布
7	アイヌ差別から考える	時枝　武敏	由布
8	選別することは教育か～私の抗い～	時枝　武敏	由布
9	いま、若い教員に伝えたいこと	時枝　武敏	由布
10	Ｅタイムはいいタイム？～「人間関係づくりプログラム」日田三隈Ver.～	野上恵美子	日田三隈
11	子ども会の生徒たちに教えられたこと	福田　洋平	三重総合

教育の原点

大分東分会　　廣田　典子

午後からのスタートとなった本分科会は途中参加を含めて、７名が参加しました。時枝先生・福田先生の両リポーター２名の計10本のリポートをもとに、子ども会のあり方、差別とたたかう理想の学習する仲間づくりとは何か、様々な背景を持つ子どもたちにどう寄り添い、接してきたかなど、経験や思い、疑問を語りあいました。あっという間に三時間半が過ぎ、それでもなお時間が足りないというほどのボリュームで、充実した時間となりました。子どもの成長を信じて「寄り添い」「待つ」「見守る」という姿勢やそのひとことが生徒の人生を左右することにもなる教師の言葉の重さ、そして「答えはその子の中にある」という重要な教育の原点を確認できました。慌ただしい日々の中で、ともすれば効率や成果を求めて本当に大事なことを見失ってはいないか、そのことが子どもたちから生きる力を奪ってしまうことにつながる自覚はあるか、と突き付けられた時間でした。

＜参加者の感想＞

○人権教育ではいつも自分の中のノイズをリセットできます。

○「答えはその子の中にある」「わかることはかわること」多くのことを学ばせてもらいました。現場で活かしていきます。

第14分科会　障害児教育

	リポートタイトル	リポーター名	分 会 名
1	はじめての支援学校で（雑感）	佐藤　立也	宇佐支援
2	支援をするにあたり感じたこと	堀田　文雄	由布支援
3	支援学校の図書館～現状と課題～	後藤　由美	学校司書部

素晴らしいとりくみ

宇佐支援分会　　都留　恵子

本分科会は、リポーター、運営委員を含む参加者16名で行われました。

はじめに、由布支援分会の堀田さんの録画による発表があり、担当する生徒の実態に即した支援方法について説明があ

りました。試行錯誤しながらの日々の実践報告に参加者も画面から目が離せないようでした。次に、もう分会の後藤さんの発表では、2019年６月に公布、施行された「読書バリアフリー法」の紹介がありました。学校教育において、アクセシブルな書籍の利用の活性化が求められている現在、読書バリアフリー法を追い風にしながら障害児の学ぶ学校で司書としてできることをやりたいという強い気持ちが伝わってきました。

発表後、支援学校の図書館について多くの質問や意見が出され、図書館が子どもたちの学びの場として欠かせないものであり、支援学校の教員が図書館のことを知る機会をもつことが大事であると感じました。

＜参加者の感想＞

○別府支援の図書館が、学校司書が入ったことにより劇的に変わったという話を聞き、知的の学校にも導入してほしいと思った。図書館については、この会に参加しなければ知らずに過ぎてしまったことです。ありがとうございました。

○「教育条件」、障害があろうがなかろうが同じ権利であるべきなのに、学校図書館や図書館教育に関する分野はとても遅れていると感じた。支援学校の図書館の現状が良く分かった。改善に向けてみんなで頑張っていけたら、と強く感じた。

第18分科会　平和教育
第24分科会　総合学習

	リポートタイトル	リポーター名	分 会 名
1	「高校生１万人署名活動」大分での状況	佐藤　立也	宇佐支援
2	生徒が主体的に取り組む人権・平和学習を目指して～地元の人と歴史に学ぶ～	杉田　義一	情報科学
3	ありがとう高教組	福田晃一郎	日田定時制
4	Bamboo World　～ICTと外部講師を活用した授業作り～	糸永　伸哉	爽風館定時制

社会とつながる学習活動

新生支援分会　　熊本　浩介

「平和教育」では、情報科学分会の杉田先生の、地元の戦争について生徒がフィールドワークや体験者の聞き取りをし、全校生徒の前で発表するとりくみと、宇佐支援分会の佐藤先生の平和大使のサポーターとしてのとりくみの２本。「総合学習」では、爽風館定時制分会の糸永先生のICTや外部講師を活用した授業についてのとりくみの、計３本の発表がありました。

分野は違うものの、３本のリポートに共通することは、学校の外と連携して学習活動を行うことです。学校は、生徒の成長を促す場所ですが、学校の中だけの活動では生徒に与えられる教育的な刺激は限られてしまいます。

学校の外に活動の場を求めることで、思いがけない刺激を受け生徒が変容する姿が報告されました。また、日田定時制分会の福田先生より、持ち込みで自主教材の発表もありました。

自由討論では、総合的な探求の時間のあり方や、平和教育の現状等について熱心な意見交換が行われました。

＜参加者の感想＞

○久しぶりにこの分科会に参加しました。刺激をもらいました。平和学習や総合学習にしっかりとりくまないと、大変な状況になるなぁ…と思います。これからも、いろんな情報を得たいと思います。

○「組合員でよかった」としみじみ思います。平和や人権について学び考えるチャンスをたくさんもらえるからです。

第19分科会　情報科社会と教育・文化活動

	リポートタイトル	リポーター名	分 会 名
1	朝読書とNIE（新聞記事ワークシートを使った活動）	深藏　　剛	安心院
2	新聞活用（NIE）学年と教科でやってみました	畑野　新司	杵築
3	先を見据えた学校図書館の蔵書構築	深藏　　剛	学校司書部
4	学校司書の事務室兼務問題の現在地	深藏　　剛	学校司書部
5	学校図書館の変化　2020→2021	小野　陽子	学校司書部
6	支援学校の図書館～現状と課題～	後藤　由美	学校司書部

本は人生を豊かにする

日田分会　　佐藤　由美

学校図書館の蔵書構築は10年以上先にも影響が残るので、数字に基づく計画的購入と蔵書鮮度管理を行うようにし、予算案は根拠ある説明を職員会議で提案しているという、発表者の「転勤により司書が変わってもその人の性格や経験年数などにより予算の変動が勝手に行われないようにしたい」という芯の通った強い思いに参加者一同頷いていました。教育のICT化は大きな変化であり、字を読むのは苦手だけれどアプリ使用やタブレットなど通して、もう一度読書体験へと結びつけていけるかもしれないし、「読書バリアフリー法」が追い風となり「指導者は、生徒の中には読みたくても読めない理由や、文字として紙媒体で提出することが困難場合、その理由に応じてICT機器を活用して提出・確認する方法もあるのではないか」などの共通理解ができました。「本は人生を豊かにする」という考えで教職員にも学校図書館に興味をもってもらい、逆にどんな授業内容を行っているのかを把握する努力や広報活動も有効であろうという意見もありました。タブレット使用については入学後のオリエンテーション時に「デジタルオリエンテーション」の時間がいるのではという声もあがり一同賛同していました。

＜参加者の感想＞

○一人一台タブレットが導入されたことで、今後大きく図書館も影響を受けることを考えた。NIEへのとりくみも考えていきたい。

○事務室兼務の切実な状況について考える良い機会になった。“私がよければ”で働いていると、後任の方にも同じことを押しつけてしまうなど、状況が改善されないと思う。自分の仕事（学校司書業務）でしっかり成果を出す（生徒アンケートやイベント実績など）などして、自分の仕事に専念できる環境づくりをしていきたい。

第20分科会　選抜制度と進路保障

	リポートタイトル	リポーター名	分 会 名
1	福祉につなぐということ	髙橋　貴子	別府翔青
2	本校進路指導の現状と課題	渡邉　孝輝	鶴崎工業

生徒に寄り添う進路指導とは

大分東分会　　小長　暁子

本分科会は運営委員４名、リポーター２名、一般参加者２名の計８名で進められました。１本目のリポートは鶴崎工業分会の渡邉孝輝さんが「本校進路指導の現状と課題」と題して、鶴崎工業高校で進路指導主任を務めた経験から様々な問題提起をしていただきました。２本目のリポートは別府翔青分会の髙橋貴子さんが「福祉につなぐということ」と題し、教育相談部として生徒と関わる中で見えた課題や解決方法についてお話していただきました。

質疑・応答後、討議の柱を「生徒の自主性を守り、生徒の側に立った進路指導はどうあるべきか」として、自由に意見を交わしました。卒業後の追跡調査が不十分で、ミスマッチによる離職者の状況把握ができていないこと。様々な特性を持つ生徒のソーシャルスキルを高め、福祉につなぎ、社会へ送り出すことの難しさ。各分会での現状を意見交換する中で共感する場面も多く、様々な問題点が明らかになりました。討議を終えて、生徒に寄り添う進路指導を目指して取り組んでいくことを再確認しました。それぞれが抱えている課題解決のヒントを持ち帰ることができ、有意義な会となりました。

＜参加者の感想＞

○他校の実践例は大変参考になりました。本校で抱えているさまざまな課題について、今後のヒントとなる事例も多くありました。また、熱意をもってとりくまれている方のお話を聞いて、私もまた自校に持ち帰って頑張っていこうという気持ちになりました。

○鶴崎工業の発表については、工業高校の就職指導についての現状を良く知ることができました。複数受験、それに伴う、もしくはそれを考えるための応募前見学の複数化の問題、県内企業への就職推進の問題等、考えさせられることも多かったです。別府翔青の発表については、就職するためのハードル、社会的なハードルをいかに越えさせるか、そのために自分を知って自分の人間関係スキルを向上させることの大切さを知ることができました。

第21分科会　カリキュラムづくりと評価・高校教育改革
第23分科会　教育条件整備の運動

	リポートタイトル	リポーター名	分 会 名
1	観点別評価の取り組み「本校と大分県高等学校教育研究会商業部会の取り組み」	坪田　健二	大分商業
2	学校司書の現状にショック	谷口　博昭	竹田
3	青年部研修会「法の観点から見る私たちの労働環境　還流報告」	杉山　賢輔	青年部

団結、頑張ろう！

玖珠美山分会　　杉山　賢輔

大分商業分会の坪田先生から観点別評価の取り組みについての発表では「授業改善には一定の効果があるが、費用対効果の低さや数人立ちの授業における評価の公平性に疑問がある」とし、各校の現状等についての情報交換が行われました。竹田分会の谷口先生からは学校司書の現状について「法的には司書の重要性が謳われているにも関わらず、司書に事務仕事をさせている現状には矛盾がある」との指摘があり、また学校司書の金子先生からは「事務に追われて本来の図書館機能が低下しつつある」との発表がありました。参加者は司書の現状に憤りを感じつつ、「教員自身が図書館を利用しなかったがゆえの現状であることを認識し、図書館利用を推進しよう」という結論が得られました。玖珠美山分会の杉山は青年部で開かれたスクールロイヤーを招いての研修会についての還流報告を行い、「教員が多忙を極めているのは、部顧問など教員が法的には負う必要のない責任を、学校のため生徒のためと自ら背負い込んでしまっていることが原因である」との報告をしました。討議では「本部が中心となって組織的な“いたしません運動”をしていく必要がある」と結論が得られました。

＜参加者の感想＞

○教員が働き過ぎである現状を、もっと伝えていかなければと思います。本来管理職がすべきことを教員がしている現状

が理解できて良かったです。
○組合員はこれを今後やっていこう！組合でこれをやってほしい！などの意見がまとまれば、それを報告にまとめるなど話をした内容が他の組合員にうまく還流できる仕組みがほしい。

第25分科会

	リポートタイトル	リポーター名	分 会 名
1	夜間定時制高校の給食について　～中津東高校定時制の課題～	佐藤　洋一	中津東定時制
2	大分工業定時制に於ける各種活動のコンヴァージョン.Ⅳ ～「STEAM教育」等の特質を踏まえた取り組みの要諦～	波多野恭行	大分工業定時制
3	そうなんよ！それが定時制のこころ	横山新太郎	爽風館定時制
4	夜間定時制の来し方・行く末	日田定分会	日田定時制

食はいのち、教育は人

爽風館定時制分会　　横山　新太郎

　山装う季節、25分科会は今年も元気です。リポーターは４名です。①波多野恭行（大工定）、②佐藤洋一（中津東定）、③福田晃一郎（日田定）④横山新太郎（爽風館定）。①は、失敗しながら考える力や創造力を身につけてゆく生徒会活動のリポート。大人が口を出しすぎないのがミソです。②は夜間定時制における給食の重要性を訴えます。なんと、中津東定は今年度より調理担当が会計年度任用職員２名のみとなり、諸々不都合なことが起きています。大問題です。③は日田定のあたたかさ、生徒を大切にする空間であることが存分に伝わります。福田さんが着任して教頭が発した第一声は何だと思いますか？やはり､「教育は人」です。④は「定時制のこころ」を綴ります。全日制と同じようなやり方ではなく、「定時制の作法」を求めてゆくべきです。コルチャック先生の教えを大切にします。
　定時制ビギナーからベテランまで、７名集い、それぞれの実践や各校の状況を語り合った25分科会でした。

＜参加者の感想＞
○定時制のことをほとんど知らずに参加しましたが、実態や課題だけでなく、定時制のよさ、すばらしさ、特性がよく分かりました。「定時制のこころ」なるものが理解できました。
○教研大切！

＊＊＊

　その他にも、第８分科会「家庭科教育」に、日田三隈分会より「日田産フルーツde至福のスイーツ企画～日田産フルーツで『三方良し』を目指して～」のリポート提出がありました。
　そして、１月末に開催される全国教研に、糸永伸哉さん（爽風館定時制分会）がリポーターとして参加することになりました。
　今年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から規模を縮小して開催しましたが、県下各地から集い、日頃の実践を発表したり協議したりして、充実した時間となりました。
　運営委員、リポーター、参加者のみなさん、大変ありがとうございました。来年も、多くのリポート・参加をお待ちしています。